2020年12月13日　司祭　越山　哲也

八戸聖ルカ教会

**降臨節第3主日　説教**

**「証人（あかしびと）となるために」**

〔旧約聖書〕ｲｻﾞﾔ書　65:17~25

〔使徒書〕ﾃｻﾛﾆｹの信徒への手紙Ⅰ　5:16~28

〔福音書〕ﾖﾊﾈによる福音書1:6~8､19~28

主の平和が皆さんと共にありますように。

降臨節第３主日を迎え、アドベント・クランツのロウソクも３本目に火が点りました。主イエスさまのご降誕を喜び祝うときが、近づいていることを改めて思います。わたしたちは、わたしたちの中に来て下さる主イエスさまを、どのようにしてお迎えしようとしているのでしょうか。
　今日の福音書は、前主日に引き続き「洗礼者ヨハネ」がテーマとなっています。マタイ・マルコ・ルカの共観福音書の洗礼者ヨハネは、その呼びかけに応じてヨハネの許にやって来た人々に対して、悔い改めを強調し、洗礼を授け、それまでの行いを改めることを要求しました。そうすることによって、救い主が来られる道ぞなえをしました。メシアの先駆けとしての働きです。
　それに対して、ヨハネ福音書の洗礼者ヨハネは、今日の福音書の中でも繰り返し言われていることですが、証しをする人です。メシアについて証しをすることが、ヨハネの役割です。そのために現れました。ですから、「あなたはどなたですか」というユダヤ人の質問にも、「わたしはメシアではない」とはっきりと言い表しました。更に重ねての問いかけに対しても、世の終わりにメシアに先立って現れると信じられていたエリヤでもないと、否定しました（マラキ3：23）。また、神さまが使わすと約束されたモーセのような預言者でもないと答えました（申命記18：15）。洗礼者ヨハネは、自分が何ものであるかということについて、はっきりとした答をもっていたのです。
　わたしたちはどうでしょうか。「あなたはどなたですか」と誰かに尋ねられたときに、どのように答えるのでしょうか。名詞を差し出して、自分の社会的な立場を明らかにすることで、その問いに答えようとするのでしょうか。しかし、社会的な地位というのは、一人の人間の一部分は表しているとしても、その立場を退いてしまえば、他の人に取って変わられるものですから、その人そのものを的確に言い表していると言うことにはならないように思います。
　自分が何を大事なこととして大切にして生きているか、どのような人間であるか、何ものであるかを、適切に、或いは象徴的に言い表すということは、結構、難しいことであると思います。
　洗礼者ヨハネは、「わたしは荒れ野で叫ぶ声である」と証しました。それが、洗礼者ヨハネの全ての姿を表します。荒れ野というのは、人の肩書きや能力や蓄えなどが、一切役に立たないところです。目に見えるものによっては、生きることのできないところです。常に自分の命の問題に、直面させられるところです。

　「証」について考えてみたいと思います。教会の５指標の一つに「生活の中で福音を具体的に証すること」があります。これは是非覚えておいてください。

　証というと「私は人前で信仰の話をするのは苦手だな」としり込みされてしまう方もいらっしゃると思いますが、洗礼者ヨハネは自らの生き様を通して来るべきお方を証しました。

ですから言葉で証をするだけではなく、むしろ私たち一人一人の生き方による証が大切なのだと思います。私は生き方を通して「キリスト」を証している方にこれまで何人もの方と出逢ってきました。その出会いは私に大きな影響を与え、イエス様を近づけてくださいました。

元九州教区主教の五十嵐主教が、かつて東北教区修養会の講師としてお招きした時に「皆さん、キリストの香りを漂わせましょう」と言われたことが印象に残っています。証は日ごろの生き方に染み出てくるものなのかもしれませんね。

　また、同じく修養会で植松誠主教が言われていたことです。ある教会に巡回に行った際に、教会員数人と食堂で食事をしていた際に、見知らぬ人が近寄ってきて「クリスチャンになれば何かいいことがあるのか」と問われ、主教が何か聖職者らしいことを言わねばならないと思案していた時に、信徒の方がその場にたって「キリストを信じれば死を恐れなくなるのだよ」と証されたことに大きな感動を覚えたという話を伺いました。

　「あなたは誰ですか」と問われたときに、私は何と応えるのだろうと自分自身考えています。

皆さんはどう応えますか？そしてどう生きますか？